

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 3年 4月 30日

事業所名 放課後等デイサービス 翔 はばたき

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		1フロアをフルに活用	フロアの中心に柱が有って狭く思う時もあるが、柱を登り棒代わりに遊べるので良い時もある
	2	職員の配置数は適切である	○			出来れば男性スタッフや福祉職経験者、教員免許所持者を増やしていく。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている		○	2階の移動はキャリーを使用	発達障害の特性を理解し安全性の配慮に努める。重度の児童の居場所を考える
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		業務前、終了後に必ず改善を図る	スタッフ全員で課題について話し合い、改善していく様努める
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		直接保護者から意向等確認している	支援学校や他の関係機関と連携し情報を共有している
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			ホームページ、リタリコ発達ナビでの情報公開
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		研修を増やし業務改善し、保護者、支援センター、学校、病院等、色々な業種との業務連携を図る
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		市内、府内の研修に参加	コロナ禍でできていないが、今後落ち着いたら専門的なスキルを養う為、色んな研修に参加していく
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		関係機関と連絡を密にしている	常に事業所での様子、学校・家での様子も聞き取り、支援計画を作成している
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○			家庭での様子、学校での様子の聞き取りと、事業所での行動観察の結果を利用している
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		毎日協議している	支援目標の共通の理解をし、支援の改善に活かせる様チームで行える様努める
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		外出等もプログラムに入れる	その日の利用者の状況に応じて臨機応変に対応できる様にしている
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している		○		休日や長期休暇は外出する機会を多く増やし課外活動を行っている
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○			他の事業所や学校での活動を考慮しより細かい支援計画を作成する様努める
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		毎日送迎の配車、担当者の確認をしている	送迎、支援内容を確認し欠席者の確認をし、伝達事項に漏れがないか確認している
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		1日を振り返り日誌を書き情報共有している	何でも気付いた事を言える様に他の話題等も自由に話せる時間を設けている
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		業務日誌や連絡帳を共有している	日誌を見て振り返り、問題点があれば話し合い、支援の改善に努めている
18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○			成長の発達や、他の環境の変化に応じて柔軟に対応しているが、より良い支援の為、関係機関との連携を一層深めていく様努める	
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	○			他の事業所や支援センターからの情報をもとに、こちらでの役割を分担できる様に努める

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		児発か、関わりの深い児童指導員が参加	サービス担当者会議を通じて担当者間の密な連携と情報交換に努めている
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○		学校からの連絡を密に確認共有している	保護者からの情報や学校や関係機関との連絡の調整を行っている。連絡事項に漏れがないか確認している。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	○		連絡体制に留意している。スタッフは喀痰吸引第3号研修を行っている。	看護師も配置し主治医より指示書を出して頂きそれに沿った支援をしている。看護師がいない日は、研修を受けたスタッフで対応している
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○			関係機関と連携し、情報収集に努めている
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○			1名該当者あり。新しい生活介護の施設の方には、相談員を通じて情報提供をさせていただいた。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○			情報や助言を受けているが、研修についてはコロナ禍の為控えている。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○		学校の周りを散歩し関わりを持っている	小学校の交流行事に積極的に参加したいが、「コロナ禍」の為控えている。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している		○	無くなってしまった	以前は協議会で情報を得ると共に今後の課題等について情報収集する様に努めていたが、現在は、生活介護の自立支援協議会で情報収集している。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○			保護者に送迎時、直接お会いした時やイベント行事などに参加して頂いた時に伝えている
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている		○		ファミリーーターが中心になり家族支援ペアレントトレーニングの支援を行える様努める
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○			契約時に書面と口頭で説明している。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		電話やメールなどでも行っている	学校関係者や病院関係者、相談員と協力し支援している
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○	保護者参加型のイベント行事等で連携している	父母の会は現在存在していないが、今後視野に入れて支援する様努める
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○		苦情処理担当者を定めて対応している	苦情が出れば即対応し、事業所内で報告、連絡、相談体制をとる
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		ブログやYouTube、ホームページに載せ閲覧してもらっている	会報等は発行していないが、イベントや行事の際に伝えている。
	35	個人情報に十分注意している	○		保護条例に基づき注意している	定期的に法人の規約や条例を再確認する様努めている
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○			利用者、保護者とのコミュニケーションを大切に支援の充実を図る
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		参加している	こちらのイベントにも参加してもらえる様、年に2回は招待している

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○			防犯マニュアルについては解りやすいマニュアルを作成し直し特に重要な事は職員や保護者に周知徹底する
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている		○	避難経路を散歩はしている	消防署などに助言してもらいながら、市の指定の避難場所への避難訓練を行うことに努める
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		市や府内の研修に参加している	行政や相談支援員より情報収集し、何が一番良いのかを考え、一人一人の障がいの特性を理解し人権に関する意識の向上を図り研修を受ける
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○		該当なし	やむを得ずという場合は、保護者と連携を図り身体拘束についての理解を深めた上で状況説明をし了解を得る。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		エピペンを所持している児童がいる為研修している	現在該当社なしたが、アレルギーのある子どもには医師の指示書とマニュアル通り対応します
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している		○		最大の注意を払い事例を文書化して記録に残す